

# むきぼんだ花だよ！ 2月

2015. 2. 7

「園き芽に何湛ふらむ冬木立」

もと

いつものように晩田1号、2号墳脇から洞の原に登ろうと白鳳高校前を歩いていると、研修農地内に白く咲き誇る木が見える。

この季節、枯れた葉の裏側が白く見えるのだからと

近づいてみると甘い匂いが漂っている。

どうであろう。白梅が見事に満開である。



キミノシロダモ

葉の表は濃緑色で光沢があり、葉の裏は灰白色で、枝先の葉は輪生状になる。秋に黄褐色の花が咲き、同じ頃前年の花が黄色の実になるので、花と実が同時に見られる。雌雄異株。



ヒサカキ

サカキ(榊)と同じよう神事に用いられる。東日本では野生のサカキがほとんど分布しないので、代わりに、ヒサカキ(姫榊)を使用している。ヒサカキには小さい鋸歯がある。



アオモジ

春先、3月、葉に先立って淡黄色の小さな花を多くつける。妻木晩田は山陰では数少ない群生地であり、遺跡に春を告げる花である。材は芳香があり、クロモジと同じように楊子に用いられる。雌雄異株。



タブノキ

青谷上寺地遺跡において結合式のヤスが発掘され、弥生時代に、タブノキがヤスの柄として利用されていた。(鹿の角のヤス先をタブノキの中柄に糸状のものでくくりつけている) 黄八丈(八丈島の草木染)の黄色はカリヤス、鶯色はタブノキ、黒色はスダジイの樹皮(タンニンを含む)



クロモジ

春、新葉とともに淡黄緑色の小花が咲く。材は芳香があり、和菓子に使う楊子の材料である。枝や葉から香料の原料となるクロモジ油が得られるし、クロモジ茶もできる。雌雄異株。



コブシ

秋には幼児のにぎりこぶしに似た形の果実を結ぶことからこの名がついた。花が咲く頃、各地で田仕事が始まる。つぼみは漢方で蓄膿症や鼻炎などの処方に使われる。



キツタ

常緑つる性木本。気根をだして、樹木や岩の上などには登る。本年枝は緑色。葉は互生。花は直径1cmほどで、花弁は5個、長さ約4mmの長卵形でそり返る。雄しべは5個。果実は液果でほぼ球形。先端には花柱が残る。冬芽の頂芽は半球形またはやや扁平な三角形で紅紫色を帯びる。別名 フェツタ。



オオバヤシャブシ



ヒメヤシャブシ

工場敷地の法面に何本かのオオバヤシャブシが植えられている。毎朝目にするので生育過程がよくわかる。工場敷地が緯度では史跡公園より南にあるにもかかわらず、生育が遅いのを不思議に思っている。



手作り甘酒で  
ほっこり  
温まります

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」